



『会員の皆様のための同窓会を！』

中学校・高等学校同窓会長 石崎泰司



同窓会会員の皆様、そして東京電機大学中学・高等学校教職員の皆様には、日頃から大変ご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので、昨年5月の総会において会長という大役をお引き受けし1年半が経過しました。この1年は、会長として今まで描いていた、あれや

これをやりたいと考えていたことも全く出来ず、ただただ次から次の対応をしているうち、あっという間に1年が経過してしまった感がいたします。

然しながら、クラス会促進委員会・業務IT化委員会・朋友しおり委員会には、しっかりと活動をして頂きました。

クラス会促進委員会においては、クラス委員名簿が地道に調査され、拡充されました。業務IT化委員会には、ホームページ立ち上げ後、メンテナンスについてきめ細かく対応して頂き、そして朋友しお

り委員会は、校友会の編集理事と一緒にしおり制作に活躍、また学園100周年記念誌についても、担当記事に付いて、幹事会と意見交換しながら原稿を纏めました。更に今年の朋友は、冊子タイプで記事も多く、その内容も委員会でしっかり検討いただけた等、各委員会は活動し成果を上げてきました。

教職員の皆様や幹事・監査の方々にも幹事会をはじめ、各催し物に対しても積極的に参加して頂き、活発な意見交換が行われております。

これも『みんなの力で同窓会をもり立てて行こう！！！』と、幹事一同が『同窓会とは、同窓生のための組織である』と言う原点を忘れず、行動して頂いている賜物と感謝しております。

これからも『同窓生でよかった！！！』と思って頂けるよう、教職員の皆様、参与・幹事そして監査の皆様と全力を挙げて推進して参りたいと思っております。

会員の皆様においても、積極的にクラス会を開催し、併せて総会にもご出席頂き、一緒になって『会員の皆様の同窓会』作りをして行こうではありませんか。

総会は皆様の意見を拝聴し、反映する唯一の場所です、会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

校舎内施設改修を機に『評判の良い学校』に

中学校・高等学校校長 宮本治



同窓会会員の皆様には普段から母校の教育に深いご理解と暖かいご支援・ご協力を賜り心より感謝致しておりますとともに、今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。

小石川から東小金井に移転して14年が経ち、その間に中学校開校・工業系学科を普通科に統合・男女共学化など本校の有り様もすっかり変わってきました。そして経年劣化も手伝って、校舎内の教室・廊下・壁などに汚れや傷みが目立ち始めておりました。幸いにも100周年記念事業の一環として、中高にも予算を付けていただく事ができましたので、平成17年の夏休みに普段生徒達が集い多くの時間をすごすHR教室(36室)を、そして仲間達と語らい憩う場でもあるカフェテリアのリニューアルを実施いたしました。そして、この冬休みには教育棟の1階から4階全ての廊下・ラウンジ・階段の床面を落ち着きのある木目調のフローリングにする工事を実施します。更に、平成18年の夏休みの工事で

は先生方の理解と協力を得て、教員教科居室制をやめて中・高それぞれ1つずつの大職員室方式とします。その大きな理由はスペースを生みだすこと、HR教室(新たに3室増)や選択授業用教室(高度ネットワーク化にも対応)の確保が可能となります。また、そうする事で学年団の先生方のより効果的な連携・生徒指導が期待できますし、他学年との連携もスムーズになって学校全体でのより良い指導法等を培っていく事が出来ます。

また中高とも、女子が年々増加(15年度300名→16年度338名→17年度377名)しており、来年度は当面の目標であった800名程度の男子と400名を超える女子となる予想ですので、それに見合った校舎内施設設備等の改修も必要です。この一連の改修工事を契機に、国公立大学に何十人も合格させる事が出来るような学校を目指に、まずは先生方とともに

1. 進学実績の大幅アップ
2. 面倒見の良さ
3. 生活指導がキチンとしている

と言った評価を得ることのできる『評判の良い学校』を目指します。今後とも生徒達の健やかな成長を願い、教育環境の整備充実に努めますので、母校発展のために、同窓会会員の皆様には今まで以上に、更に強力なご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

（目 次）

会長・名誉会長挨拶	1
<特集>「飛び出すテレビ」	2
学園創立100周年記念事業のお知らせ	7
学校だより	8
クラブ報告	11
母校と同窓会の歩み	12
年次別卒業者数一覧	16
年次別担任・クラス委員一覧	19
活動報告	27
会則	31



「飛び出すテレビ」が現実になる日!!

東京電機大学情報環境学部教授
新津 靖

・3Dテレビってなに？

飛び出すテレビといつてもテレビが勝手に動き出さるではありません。「映像が飛び出して見える」、「立体的に見える」テレビのことです。

皆さんの多くがUSJやディズニーランド、IMAXシアターなどで特殊なメガネを付けて見る立体映像は経験したことがあると思います。それは、メガネに細工があり、左目と右目に届く映像を分けているのです。

私たちが立体として認識する主な原理は、「両眼視差」と言って、左右の目に入る映像のわずかな違いから奥行き感を得るもので、これ以外にも眼球の角度調整(輻輳)や焦点距離調整の具合、それらに関係する筋肉の緊張・弛緩が空間中の前後関係を認識する原因になります。

しかし、「両眼視差」がもっとも確実な立体感を与える方法です。一つのスクリーンから左と右の目に別々の映像が届くようにすると人はスクリーン上の映像を立体的に捉えることができるのです。と言うより「立体」と錯覚するといったほうが良いかもしれません。

劇場用としては特殊メガネに偏光フィルタを使用します。少し専門的になりますが、光が横波であることを利用し、メガネのフィルタであるい分けます。光の振動する方向で分けられますから、顔を傾けると立体に見えなくなります。試してみられるといいです。

さて、特殊なメガネを付けないと立体に見えないでは面倒ですね。私のようにメガネをかけた

ことのない人にとってはなおさらですし、メガネを付いている人は、その上からさらに偏光メガネを付けることになります。

当然、特殊なメガネを必要としない立体表示技術ができたらとだれでも考えるでしょう。しかし、特殊メガネを必要としない立体ディスプレイ、「裸眼立体ディスプレイ」の開発は古くから行われていますが、なかなか市場に出るものはありませんでした。メガネを付けるか付けないかは技術的な大きな違いなのです。裸眼立体表示ではメガネで選択的に透過させるということはできませんので、左目と右目の位置に一つの表示デバイスから別々の映像を投影しなければならないのです。

・裸眼立体表示の方法は？

さて、特殊なメガネを付けなくても立体的に見える方法って、どんな方法があるか考えてみましょう。2つ代表的な方法を説明します。

1つは、お菓子のおまけにもあるレンチキラーレンズを使ったものです。かまぼこ状のレンズで左右の方向に別々の映像を投影するものです。図1にその原理を示します。

もう一つはバリヤーフィルタを使うもので、図2のように、かまぼこレンズの代わりにバリヤーを置いて左右の見える映像を切り替えます。これ以外にもお札の偽造防止用に利用されているホログラムという手法もありますが、動画を再生するにはまだ技術の進歩有待があります。

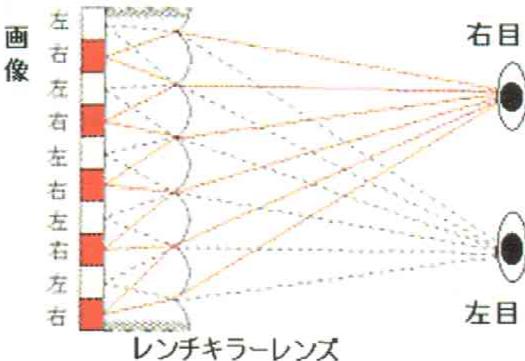
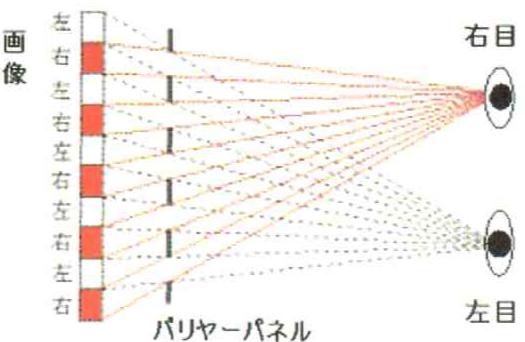


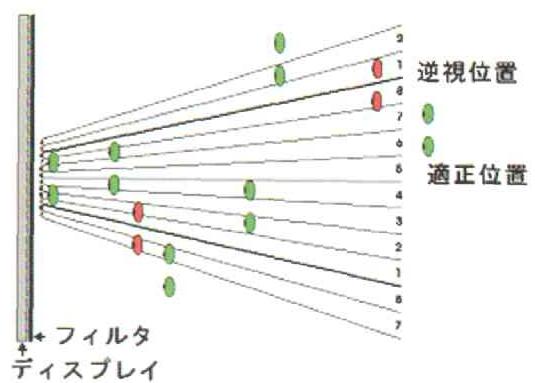
図1 レンチキラーレンズ方式の原理



このように、説明されると簡単に裸眼立体表示ができるようと思われます。しかし、これだけ技術が進歩した現代でも裸眼立体表示技術には難問が山積しています。究極の立体表示であるホログラフィックディスプレイの完成には50年以上かかるでしょう。だれもそんなに待てませんよね。では、図1や図2の方法で立体表示ができないものかと誰でも考えます。そこにはどんな問題があるのでしょうか。図1を見てください。目の位置がもし3~4cm移動した場合を考えてください。本来右目に入るべき映像が左目に、右目には左目用の映像が入ります。あるいはそれらの混ざった映像が両目に入ります。このとき立体には見えなくなります。つまり、図1、図2の方法では、頭を固定しないと立体に見えないことになります。これは人間の本性に反するんです。人は立体を見るとき裏を覗きたくなるものです。そうそうスケベ根性というやつですね。この問題を解決する方法が「多眼視」映像という手法です。これはレンチキラーレンズを使った立体セル画などにも使われています。左右両目用の2視差の映像ではなく、複数枚の視差映像を用意し、それ

らの内の2枚を左右の目で見れば立体感が得られるようになります。図3のように、8枚の視差映像をレンチキラーレンズかバリヤーフィルタで仕分けして投影すれば、両目の間隔の6倍までは左右に移動しても立体的に見える計算になります。また、視差映像は、1つ飛ばして観ても立体的に見える性質があります。このため、適正距離より近づいても立体的に映像が見えます。裸眼立体ディスプレイでは、個人で楽しむものや携帯電話などでは2眼式の裸眼立体ディスプレイも使われることがありますが、何人かで鑑賞する必要がある場合には、多眼式とよばれる立体ディスプレイが使われることになります。

図3 多眼式立体表示における逆視位置



・何が難しい問題なのか？

さて、以上のことからすぐに裸眼立体ディスプレイが作れそうな気がしますが、実際には細かな問題がいくつかあります。さらに大きな問題もあります。小さな問題は、立体感や映像のクオリティの問題と考えてください。たとえば、細かい構造のものを重ねますとモアレという縞模様が現れます。これは立体感をそぎ、画像の質も低下させます。精密な加工技術や位置あわせが要求されます。

大きな問題は、表示する映像です。特に多眼視用の映像は数えるほどしかありません。つまり、ディスプレイができても、写す映像がないのです。みなさんから見ますと「なんだあ、そんなことか」と思うかもしれませんのが、これが決定的な難問なのです。2視差の映像を撮影したりCGで作ったりする技術はかなり確立していますが、それでも2視差の立体映像の量は通常の2次元映像の数万分

の1、数十万分の1の量しかありません。多眼視画像については、研究はされていますが、撮影する技術もありません。

ここで、どのような裸眼立体ディスプレイが開発されているか見てみましょう。表1に主なものを示します。多眼視タイプの方が裸眼としては性能がよいのですが、2眼視タイプのものが多いのがわかります。これはコンテンツ(写す映像)の問題があるためです。多眼視タイプは、三洋電機、NewSight(ネプラス)、StereoGraphicsの3種類です。他にも試作した会社はありますが、実用的なものではありませんので割愛します。ネプラス(株)は私が経営する大学発ベンチャー企業です。

表1 各社の立体ディスプレイの方式と視差数

開発元・発売元	立体表示方式	視差数
シャープ	液晶パリアー	2
DTI・リアルビズ	レンチキラー	2
リアルビズ	レンチキラー	2
3D.COM	レンチキラー	2
三洋電機	斜めパリアー	4,7
NewSight・ネプラス	斜めパリアー	8
Stereo Graphics・日商エレクトロニクス	レンチキラー	9

この中で、一番立体的に見えるディスプレイ装置はNewSightが作りネプラスが販売しているものです。図4に、ディスプレイの写真を示します。17インチの液晶タイプから50インチのプラズマタイプまで7機種があります。後で述べますが、世界最大の裸眼立体ディスプレイを愛知万博用にNewSight社と共同で開発しました。この件は後でお話しします。

さて、難問のソフトウェアですが、コンテンツと呼ばれる表示の内容は映像制作者やデザイナーが行うものですから、私のような技術者がどうあがいても何も出てきません。私たちができることは、コンテンツ制作をサポートするソフトウェアやきれいに表示するソフトウェアを開発し、裸眼立体ディスプレイをもっともっと使ってもらうことです。NewSight社とネプラス社が開発しているものには、コンピュータグラフィックスで作られた立体動作モデルの8視差映像を自動的に生成するソフトウェアや、3次元

ゲームの映像をリアルタイムで8視差生成し表示するソフトウェア、2次元画像に手を加えて立体画像を作るソフトウェアなどを開発しています。しかし、まだまだソフトウェアは不足しています。研究開発の余地があります。タイトルの立体テレビの普及には、コンテンツとソフトウェアがその鍵を握っています。



図4 NewSight社の裸眼立体ディスプレイ
40インチ液晶 19インチ液晶

・裸眼立体ディスプレイを扱うきっかけは?

もともと大学発ベンチャーを立ち上げたのは、私が開発した教育用ソフトウェアを売り出すためでした。

経済産業省の天才プログラマーを発掘する事業、「未踏ソフトウェア創造事業」が2000年からスタートしましたが、これに採択されたのがきっかけです。最初は自分のソフトウェアを売り込むためのベンチャーでした。

それが、ある国際会議で私のソフトウェアの発表と展示をしたのですが、そこでドイツのレルケ博士が裸眼立体ディスプレイの発表と展示をしていました、彼と仲良くなったのです。それがきっかけで、彼が開発した立体ディスプレイのソフトウェアを開発することになり、日本での販売を始めることになりました。

偶然の出会いが仕事のきっかけになることがあります。図5はレルケ博士と今年の冬に大型ディスプレイ設置後、ドイツに行ったときに取った写真です。



図5 レルケ博士との再会の写真

・愛地球博の世界最大裸眼立体ディスプレイは?

愛・地球博の人気パビリオン長久手日本館に世界最大の裸眼立体ディスプレイが展示されました。日本科学未来館が中心となり、私が代表を勤めるネプラス社とドイツのNewSight社が製作しました。

大きさは横4m、縦2.3m、重さ約2tのリアー投影型裸眼立体ディスプレイです。図7に写真を、

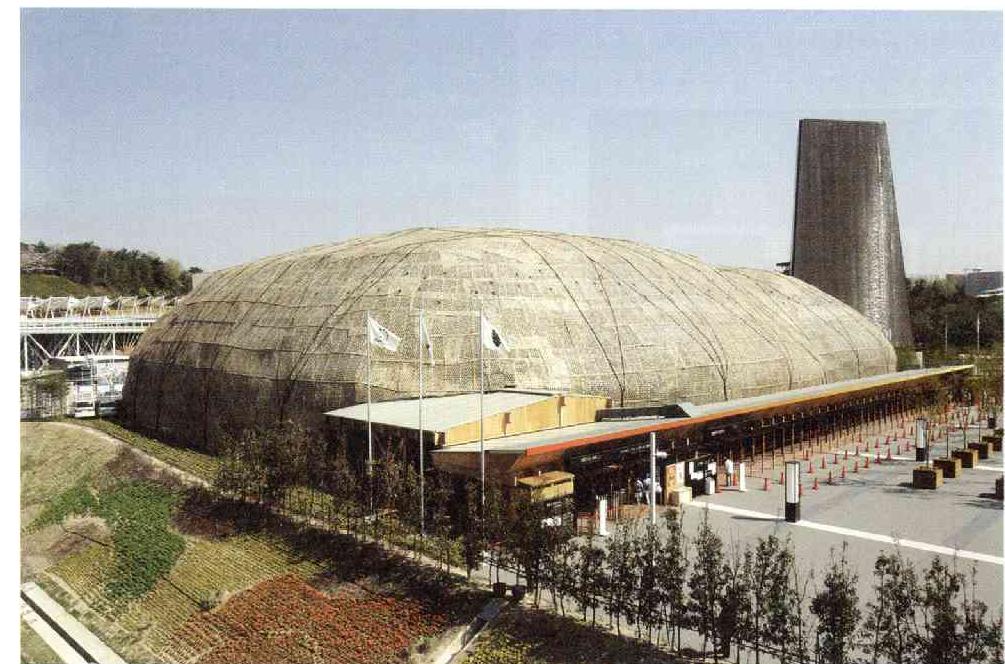


図6 裸眼立体ディスプレイが展示された「愛・地球博」の
人気パビリオン長久手日本館

図8にバックヤードの映像送出システムの写真を示します。

今まで、このような大型裸眼立体ディスプレイの開発は非常に困難と考えられていました。その意味で、この大型ディスプレイの開発は意味があります。従来、50インチ程度が最大の裸眼立体表示が、より大きな表示を必要とする分野に応用できることを実証したわけです。一年半前の情報処理学会誌の特集記事で、私は「大型の裸眼立体表示装置の実現にはまだ時間がかかるだろう」と書きました。そのときすでにこのプロジェクトを進めていたのです。(笑)秘密裏に開発していましたからそう書いたのですが、理論的にも難しいのです。レルケ博士も3年前に実験的に成功していましたが、大きくしたときにはどう見えるか心配だったと語っていました。もちろんこのディスプレイは世界最大の裸眼立体ディスプレイとしてギネスブックにも登録されています。

愛知博の大型裸眼立体ディスプレイは、奥行き感も強く、画期的なものでした。ただ、コンテンツは宇宙の映像のため、視差による立体感を付けることが難しい内容でした。このため、大きな反響を受けなかったのが残念です。サンプル映像の中には驚くような立体表示のものもあったのです。近いうちにそのような映像を多くの人に見て

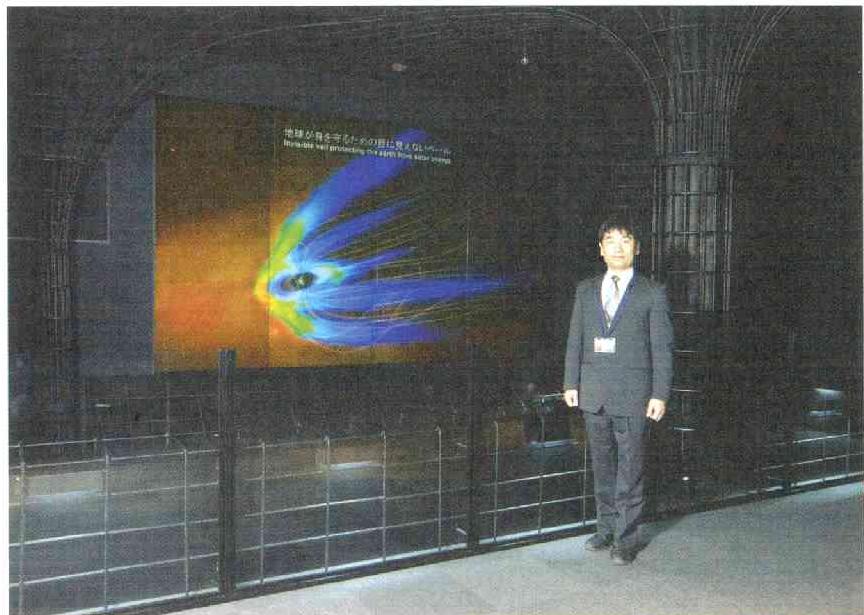


図7 愛知博・日本政府館内に設置された大型裸眼立体ディスプレイ
(映像は太陽風から地球を守る地球磁気圏)

もらえるようにしたいと思います。それにもしても、日本を代表する長久手日本政府館にドイツ製のディスプレイが入ったことは異例中の異例だそうです。会期前から会期中にかけて2年以上、このプロジェクトの成功に向けてドイツの科学者・技術者たちと一緒に仕事ができたことは貴重な経験でもあります。心残りは、お金を使いすぎて会社としてあまり儲からなかったことです。



図8 大型裸眼立体ディスプレイのバックヤードにあるコンピュータシステム

・今後の課題は?

すでに述べましたように、一番の課題は、コンテンツとソフトウェアにあります。特にコンテンツの量と質です。多眼視のコンテンツを生成するための各種ツールが開発を急ぐとともに、2次元映像の3次元化技術など、先進的なソフトウェア技術を開発していく必要があります。大学の研究室や企業が取り組んでいますが、まだまだ解決すべき問題が残されています。3Dコンソーシアムや立体映像産業推進協議会の試算では、

立体映像が一部の一般家庭にまで普及した場合には2兆円／年を超える産業規模になると考えられています。それが、「飛び出すテレビが現実になる日」です。その1%でもいいですから引き寄せたいですね。皆さんも将来、こんな技術に共にチャレンジしてみませんか？



<新津 靖(にいつ やすし)>

1956年生れ。1981～1991年、東京工業大学精密工学研究所助手、ミュンヘン工科大学客員研究員、レンスレア工科大客員研究員。1991～1997年、東京電機大学工学部機械工学科助教授。1997～2001年、同教授、2001年～同大学情報環境学部教授。現在はネプラス株式会社代表取締役を兼務。

学園創立100周年記念事業のお知らせ

学園創立100周年記念事業推進本部

学園の概況

学校法人東京電機大学は、明治40年9月に扇本真吉、廣田精一によって「工業教育の普及こそ国家発展のもとである」という高い志と優れた考え方のもとに私立電機学校が神田に創立されました。

以来、建学の精神を守り、高い社会的評価を得て理工系総合大学として発展し、来る平成19年9月には創立100周年を迎えます。

現在の高等学校は、昭和14年4月に東京電機工業学校として神田キャンパスに設置、その後、昭和23年の新学制によって新制高等学校として出発し、昭和40年4月には小石川キャンパス(東京ドームの西側)に移転、平成4年4月に、現在の小金井キャンパスに移転いたしました。

また、平成8年には創立90周年記念事業の一環と



・記念式典を予定している日本武道館

して、中学校を併設いたしました。さらに、平成11年から中学校、高等学校は、男女共学校に移り変わりました。

記念事業の概要

学園創立100周年を記念して、いろいろな事業を推進しております。

その主な事業の内容は、

- ①神田キャンパス再整備



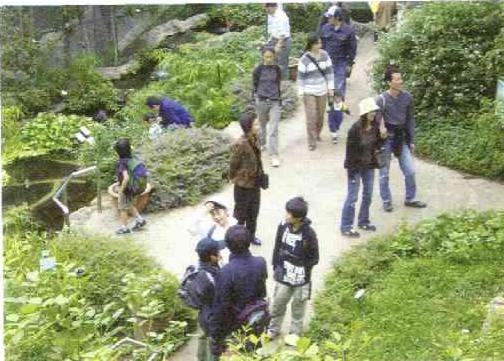
・祝賀会を予定している帝国ホテル

学校の近況

平成8年に中高一貫生を受け入れてから10年を迎えます。学則定員40名からスタートし、現在は120名体制になっており、今後150名あるいは180名を視野に入れて一貫生の充実を図っております。

少子化の影響を予測しその対応について真摯に

中学校だより



・全校遠足（多摩動物公園）
小学生が行くところだと生徒の声しきり！？



・球技大会
期末テスト終了後のストレス発散の効果？



・中3夏期勉強合宿（緑の休暇村）
生徒も大変だが、先生はもっと大変



・卒論発表会
卒業証書授与式の後のクラス代表による発表風景



・芸術鑑賞会（日展）
説明案内人の話を聞いて理解が深まっただのようか



・百人一首大会
二連覇、三連覇を目指し、いざ！

検討を加え、生き残りをかけて努力を重ねてまいりました。その結果が少しずつ表れてきているように思われます。

単に受験だけを意識した指導ではなく、生徒一人一人に気を配る面倒見の良さが広く強い支持を受けております。これは在校生の弟妹の入学希望者の多さや電機学園関係の卒業生の子女、また近隣の小学校からの受験者の増加も読みとれ、とてもありがとうございます。

週6日制を堅持し学習時間をしっかりと確保してきたことにより、中学校での総時間数は公立をはるか

に上回り、その分先取り教育が余裕を持って行われております。基本的には中学2年終了時に主要教科は中学3年までの内容を終了します。

来年度からは中学3年のクラス編成において習熟度を加味した総合的な編成を一部取り入れて運営していきます。尚以前から好評の中学校3年生の卒業研究には電機学園の特長を生かしたIT教育の充実を更に図っていきたいと考えております。

全学行事

●体育祭は雨で延期となって、中・高合同で6月17日(金)に行われました。中学生が増加したため保護者の参加も多く、より広いグランドが望まれます。



・体育祭：恒例の「扇の舞」（高校3年女子）も、グレードアップしたかな？



・色別リレー（中学校・高等学校）は、いつも白熱します！



・「いかだ流し」（中学校）落ちないように！

一方、学力中心の指導ばかりではなく全校で取り組む経験の場も工夫し、百人一首大会・強歩大会・新入生歓迎会・合同遠足・見学会など多彩です。それぞれ中心となる生徒達のリーダーシップを育てるよう教員は辛抱強く見守っており、きめの細かな教育活動を続けて参ります。

今後とも中学校・高等学校の発展にご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

●文化祭（第14回TDU武蔵野祭：9月24/25日は、テーマは「Collaboration」、クラブ・クラス参加で品位あふれる行動と団結力が、とても好評でした。PTA懇いの部屋・バザーも盛況でした。



・武蔵野祭：「とても多くの卒業生が訪れました。」



・「1L5祭りだワッショイ」射的も好評でした。

校舎、設備改修

●創立100周年記念事業の一環として中学・高等学
校の校舎改修が始まりました。

小金井校舎は平成4年に移転後、14年を経たため改修され、全教室の机・椅子・ロッカーが新しくなり、床・壁面・黒板・廊下、1Fの食堂も全面的にリニューアルされました。

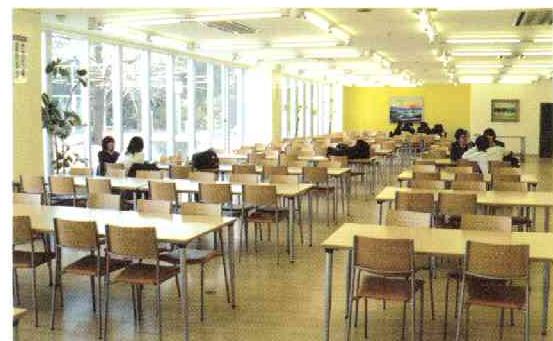
来年度には、先生方の居室がリニューアルされ、担任の全先生が中学職員室・高校職員室に入る予定です。



・1階エントランスも和やかになりました。



・校舎改修：机も椅子もロッカーも教室内は全てリニューアルで快適な学習環境です。



・校舎改修：カフェテリアも、和やかな落ち着いた環境です。図書館には無線LANも！

職場体験…帝国ホテルグループ「ザ・クレストホテル立川」(KJより)

ここ数年、学校の中の勉強だけでなく、社会生活にも十分対応できる生徒を育てようと、職場体験や職場訪問が実施されております。

今回、3人の女生徒が超一流ホテル（帝国ホテルグループの「ザ・クレストホテル立川」）を訪問し、総副支配人からホテルというサービス業を通して社会人としてのあり方を学んできました。

・基本は「態度、言葉遣い、身だしなみ」

なぜ大切なかというと、従業員は、お客様に接した瞬間、この3つが評価され、そして、こういう従業員がいるホテルは？？と、ホテルの評価になってしまうからです。

そのほか実際に仕事をする上では、「協力性」「信頼性」「仕事への注意力」「率先力」「判断力」が、とても大切なことであることを学びました。

・テーブルマナーから学ぶ「思いやり」

テーブルマナーはなぜ必要かというと

1. お料理を楽しく美味しく食べられるように
2. 周りの人から見て美しく見えるように
3. 周りの人に不快な思いをさせない



(島津さん　相原副総支配人　宮本さん　市川さん)

クラブ活動報告 鉄道研究部

「夢は実現させるもの」

高等学校3年 佐藤 敬一郎

◆ 鉄研復活！ ◆

高校に入学してすぐ、「部活を作りたい」と言い出した。なぜなら、この学校に「鉄道研究部」の存在が無いことが不思議で仕方なかったからである。愛好会からスタートした鉄道研究部は設立から約1年半、17年度から正式な部活動として「鉄道研究部」が始まった。

◆ 鉄研のはじまり ◆

愛好会として始まった活動は、放課後に教室を借りて持ち寄った鉄道模型を走らせるという小ぢんまりとしたものだった。そしてすぐに第一回目の文化祭を迎える、鉄道模型や切符などを展示し、「見て楽しむ展示」という形で評価を得たが、どうも物足りない感じが残り、来年度の文化祭で改良することを話し合った。その後、部員も少しずつ増え、放課後・休日に集まっての鉄道写真撮影、運行ダイヤについて話し合う等、活動内容のバリエーションが広がっていった。2回目の文化祭を迎えたとき、大きな転機を迎えた。生徒の大半が通学に使用している中央線の高架化工事が始まったのである。このことを文化祭でレポートとして展示・解説することによってもっと鉄研の活動内容を公の場に公開することができるのではないかと考えた。その結果、当日は「鉄道模型」「車両・旅行レポート」「中央線高架化工事レポート」「鉄道部品用品展示」「運転シミュレーター」と、内容を大幅にパワーアップさせ、「見て興味をひく展示」の基礎を作ることができた。



◆ 鉄道研究部 ◆

さまざまな苦労を経て、「愛好会」から「部活」へと昇格することができたが、このまま何もしなければ普段の活動も、文化祭も変わらない、「愛好会と変わらないじゃないか」と非難され存在さえ危うくなってしまうかもしれないと思い、抜本的な改革を行うことを部員と話し合った。そこで「何か目標を立てる」という意見がまとまつた。その目標が「人が乗れる鉄道模型（5インチゲージ鉄道）を作る」ことである。道具も技術も無いこの部活では無理だという言葉も出たが、一度決めた道を戻るわけにはいかないという意思を持って全員が情報収集に必死だった。さらに「今年の文化祭で人を乗せて走らせる」という目標も付け足され、車両製作を急ピッチで進めた。完成部品として売っているものがほとんどなく、手探りで作るようなものだったが、どうにか文化祭までに完成することができた。実際に線路の上を走り、さらにその車両に乗れるということもあってかとても多くの評価をいただいた。「見て体験できる展示」そして「大きな目標」を実現することができ大変嬉しく思った。

◆ 3年間 ◆

ここまで自分が、そして部活がレベルアップしていくことが出来たのは部員の努力だけではなく、多くの協力があったからである。正顧問を引き受けてくれた見崎先生をはじめ、名前を挙げれば数え切れないほどの多くの人に感謝しなければならない。夢は実現するものではなく実現させるものだということを体で感じることができた部活動生活であった。

母校と同窓会の歩み

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1907(明治 40)年 9 月	・広田・扇本両先生によって高等学校の母校である電機学校創設。	
1923(大正 12)年 9 月	・関東大震災により木造校舎焼失。	
1924(大正 13)年 12 月	・電機学校私設無線電信電話局 JMYM 認可される。NHK 東京放送局に先駆け送受信を行なっていた。 ・NE 式写真電送成功 ・(2・26事件発生)	
1928(昭和 3)年 11 月	・実業学校令による東京電機工業学校(高等学校の前身)を併設。 昼間部・夜間部の課程を置く。 ・(第2次世界(欧洲)大戦勃発) ・(太平洋戦争勃発)	
1936(昭和 11)年 2 月		
1939(昭和 14)年 4 月	・実業学校令による東京電機工業学校(高等学校の前身)を併設。 昼間部・夜間部の課程を置く。 ・(第2次世界(欧洲)大戦勃発) ・(太平洋戦争勃発)	
3 月		
1941(昭和 16)年 12 月	・校名を電機第一工業学校と改称、別に電機第二工業学校を設置。 ・(広島・長崎に原爆投下、戦争終結)	
1944(昭和 19)年 4 月	・学校改革により電機第一、同第二工業学校が合体して、電機学園高等学校となる。普通科新設。	
1945(昭和 20)年 8 月	・電機第一・二工業学校廃止。	
1948(昭和 23)年 4 月	・電検認定制度が変更され、本校が第一次試験免除校に認定。	
1949(昭和 24)年 3 月	・校名を東京電機大学高等学校と改称。	
1952(昭和 27)年 5 月	・文部省産業教育研究校に認定。	
1956(昭和 31)年 2 月	・創立 50 周年記念式典を東京体育館にて挙行。	
1957(昭和 32)年 4 月	・(一万円札発行)	
11 月		
12 月		
1958(昭和 33)年 10 月	・文部省産業教育指定校として、研究発表会を挙行。 ・丹羽保次郎学長、文化勲章受賞。	
11 月		
1959(昭和 34)年 1 月		・高校同窓会設立の援助を校友会・および母校に願い出る。
2 月		・母校より同窓会設立準備金として 76,700 円下賜される。
3 月		・設立発起人会を開催。
4 月		・創立総会を本館 5 階講堂で開催。 校友会から高校同窓会設立を承認される。
1962(昭和 37)年 3 月	・文京区後楽に高校校舎建設計画決定。	・勤務地区別同窓会名簿を発行する。
1963(昭和 38)年 3 月	・高等学校の教育課程改定に伴い機械科、電子科、電気科、と改定する。	・初めて校友会経由で入会金が同窓会に入る。
1964(昭和 39)年 3 月		・総会でレリーフ基金募金開始を決定、募金活動を開始する。
6 月		・千代田区地区同窓会、中央地区同窓会発足。
10 月		
11 月	・山梨県八ヶ岳山麓に清里寮竣工。 (オリンピック東京大会開催)	
1965(昭和 40)年 4 月	・文京区後楽に高等学校校舎ならびに体育館竣工、新校舎で授業開始。	・小石川新校舎で初の総会開催。 ・第1回の全卒者名簿の発行に協力。
6 月		

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1966(昭和 41)年 4 月		
1968(昭和 43)年		・工業計測科廃止。 ・(日本万国博覧会開幕)
1969(昭和 44)年 3 月		
1970(昭和 45)年 3 月		
1973(昭和 48)年 5 月		
1974(昭和 49)年 4 月		
7 月		
1975(昭和 50)年 7 月		
1977(昭和 52)年 6 月		・大学理工学部開設と学園創立 70 周年記念式典を鳩山校舎にて挙行。
1978(昭和 53)年 6 月		
1979(昭和 54)年 6 月		・高等学校創立 40 周年記念式典を「グラン ドパレス」にて挙行。 ・東京私立中学・高等学校協会第四支部の支部長校となる。(任期 1 年)
1982(昭和 57)年 6 月		
11 月		
12 月		・学園創立 75 周年記念式典を『東京プリンスホテル』にて挙行。 ・小石川校舎増築工事起工式。
1983(昭和 58)年 6 月		
8 月		・小石川校舎 3 号館竣工式。
1984(昭和 59)年 6 月		
7 月		・機械科の募集、昭和 60 年より募集停止。
10 月		
1985(昭和 60)年 2 月		・機械科を電子機械科に改編。 ・(科学万博(つくば'85)開幕)
3 月		
6 月		
10 月		
1986(昭和 61)年 4 月		
11 月		・(伊豆大島、三原山 206 年ぶり大噴火)
1987(昭和 62)年 1 月		
1988(昭和 63)年 3 月		・(世界最長、青函トンネル開業)
1989(平成元)年 5 月		・アイオワ大学工学部と推薦入学に関する協定書調印。

年 月	学 園・時 事	同 窓 会
1989(平成元)年 11月	・(ドイツ、ベルリンの壁崩壊)	・高等学校創立 50 周年、第4回卒業生招待会(全卒業者)日中友好会館で開催。
1990(平成 2)年 4月 9月 11月	・工業科を電子電気科、情報科学科に改編。 ・小金井校舎地鎮祭実施。	・同窓会設立 30 周年記念講演を卒業生、矢追純一氏(元日本テレビディレクター)「宇宙人は実在する!?」を講演。
1991(平成 3)年 1月	・(湾岸戦争勃発、ソ連邦消滅宣言)	
1992(平成 4)年 3月 4月 6月 9月 10月	・小金井校舎建設資金募集開始、目標金額 5 億円、期間 H3.1.1 ~ H5.12.31。 ・小金井キャンパスに高等学校舎竣工。 ・文京区小石川校舎から小金井校舎に移転。新校舎にて授業開始。 ・電高祭から TDU 武藏野祭に改称。 ・電気科、電子科、電子機械科を廃止。 電機学校廃止。	・小金井新校舎で初めて総会を開催。
1994(平成 6)年 11月 12月	・東京電機大学中学校設置文部省に申請。	・同窓会機関紙“朋友”をタブロイド版の新聞形式で編集、送付決定。
1995(平成 7)年 1月 3月 7月	・(阪神・淡路大震災) ・(オウム真理教による地下鉄サリン事件)	・同窓会設立 35 周年記念講演として、元巨人軍打撃コーチ中畠清氏講演。
1996(平成 8)年 4月 5月 6月 7月 11月	・東京電機大学中学校入学式。 ・東京電機大学中学校開設披露式挙行。	・第 10 回卒業生招待会開催(高校小ホール)。 ・第 3 回全卒業者名簿の発行に協力。 ・新聞形式の“朋友”を従来の冊子形式とし、中畠清氏の講演を掲載。
1997(平成 9)年 7月 9月	・文部省、大学へ「飛び入学」を可能とする省令改正を公布、即日施行。 ・学園創立 90 周年記念式典を『東京国際フォーラム』にて挙行。日本人初の宇宙飛行士「秋山氏」が同会場にて記念講演。	
1998(平成 10)年 6月 8月		・中学・高等学校同窓会会則を改定。 第1回三同窓会(電機学校・中高・大学)の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」にて開催。
1999(平成 11)年 4月 6月 8月	・中学・高等学校男女共学となる。 ・高等学校の工業に関する学科(電子電気科、情報科学科)生徒募集停止。 ・高等学校創立 60 周年記念式典を高校小ホールで開催。体育館で東京電機大学学長小谷誠氏「超電導の世界」を講演後、祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。	・同窓会設立 40 周年記念総会を高校会議室で開催後、記念の祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。
2000(平成 12)年 6月 12月		・第 2 回三同窓会の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」で開催。 ・荻原会長から小長谷会長にバトンタッチ。 ・役員人事専門委員会発足。 ・第 3 回三同窓会(電機学校・中高校・大学会長・副会長合同懇親会、神楽坂「鳥茶屋」にて開催)。

年 月	学 園・時 事	同 窓 会
2001(平成 13)年 1月		・第4回三同窓会(電機学校・中高校・大学)会長・副会長合同懇親会、神田「竹トンボ」にて開催。
4月	・高等学校の工業に関する学科(電子電気科、情報科学科)を廃止。	
7月	・日本テレビ第 25 回鳥人間コンテスト選手権大会に出場。	
9月	・同時多発テロ(アメリカ)世界貿易センタービル崩壊	
2002(平成 14)年 3月 4月 6月		・東京電機大学新学長に当麻喜弘氏就任。
11月		・東京電機大学同窓会創立 50 周年記念式典開催(椿山荘にて 629 名出席)。
2003(平成 15)年 5月 7月		・創立 100 周年記念事業募金開始。 目標額 15 億円 期間 平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日
2004(平成 16)年 3月 5月 6月		・21世紀 COE プログラムが文部科学省により採択される。 ・学園理事長に加藤康太郎氏就任。 ・大学学長に原島文雄氏就任。 ・短期大学廃校。
2005(平成 17)年 2月 3月		・秋葉原ダイビルに秋葉原プランチ開設。 ・校友会理事長に岡田義一氏就任。
		・中・高同窓会 HP ページ開設。
		・第 17 回卒業生招待会開催(高校カユタリ)。 ・小長谷会長から石崎会長にバトンタッチ。
		・数年ぶりの宿泊校外幹事会開催(伊豆高原荘)。

卒業 年次	定 時 制						全 日 制								
	電気科	機械科	電 气 科				電 力 課 程				電 气 機 器 課 程		電 气 通 信 課 程		
			電 气 科		電 子 科		電 力 課 程		電 气 機 器 課 程		電 气 通 信 課 程		電 气 計 測 課 程		
			E1	E2	M	C	E1	E2	E3	E4	M1	M2	C1	C2	I
S 24	(吉田 宇一)	(伊藤 克巳)													
	阿久津 功	横山 実													
25		(服部 三郎)	(吉田 宇一)												
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	(伊藤 克巳)	原口 喜八									
				成田理生男		深海和太郎									
27			横田良次郎	鈴木 徳三	(伊藤 克巳)	原口 喜八									
			矢野 善治		稻葉 猛功	小林 健雄									
28		(河辺 貞夫)			首藤 富家	森田 恒久									
		佐藤 守弘													
29			鈴木 徳三		首藤 富家	(角田 秀夫)									
					北風 康夫										
30		(河辺 貞夫)			横田良次郎	板垣 光夫									
					松本 和夫	菅谷 敬弘									
31			小針 藤男		首藤 富家	(角田 秀夫)									
32		(河辺 貞夫)			(大渡 正治)	板垣 光夫									
		茂木 実			吉川 洋										
33			小針 藤男		(大渡 正治)	(角田 秀夫)									
		龜山 孝			与儀 正久										
34		角川 一治			小針 藤男	中島 輝夫									
					田中 勝	椎津 利雄									
35		角川 一治			(大渡 正治)	中島 輝夫									
						池田 恒男									
36		桜井 松治			横田良次郎	中島 輝夫									
		野村 力男				富山 晃宏									
37		杉野 良知			桜井 松治	横田良次郎									
		石崎 泰司				宮城 一治									
38		杉野 良知			下崎 和彌	(大江 康男)									
						中山 勇次									
39		(大江 康男)			(吉田 宇一)	白川 守昭									
					大塚 忠克	坂本 寛									
40		(吉田 宇一)			下崎 和彌	松岡 三夫									
41			見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一									
			富安 和雄	矢部 好彌		小杉 喜美									

卒業 年次	全 日 制 普 通 科											
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12
H 14	L1・2 吉場 章二	樋田 穎	深谷哲弘	津村栄一	北園桂子	林 幸男	磯谷和樹	平山桂樹	L10・11 山内 雄司		川口 純	
	井上 謙	杉本寛朗	渡部裕也	木内正樹	清水春美	安保明日香	青木亜都	瀧 淳仁	鈴木 幸代	松本恭子 村瀬麻里奈		
	飯沼 貴之	南元大輔	鶴田裕征	寺田 史	菅原龍之介	葛井博行	荒井 勉	松川彩子	滝田 陽介			
15	L1・2	L3・4		山住 直政	上前 隆雄	妹尾 敬	陰山 稔	奥原もなみ	加藤 学	飯島 稔		
	山崎 武光	黒沼 康広			茅野 尚人	岡野 理紗	副島 亮子	兼康 友和	凌賀 智人			
	柏木 啓志	有澤 岳	杉本 悠樹	渡邊 信人	持田 直之	羽立 新吾	中村 聰	山本 堂之	佐川 寿朗	佐藤 剛		
16	L1・2			前田 輝明	小峯 龍男	渡邊 盾夫	深谷 哲弘	米山 裕	疋田 康之	山崎 晴康	山田 朋実	
	平川 吉治			中沢 孝之	杉田 裕介	能島 智之	阿部恵理華	及川 蘭夢	堀 悠吾	御手洗真美	田代 荘樹	
	篠田 親吾			高橋 弘実	宮川 真典	松浦 善太	山本 達也	井上 富予	笛川 千春	村山 幸弘	山崎麻莉子	三浦 功二
17	L1・2	樋田 穎	内山 章夫	平山 桂樹	松沢 俊也	林 幸男	原田 苗美	山本 将也	L9・10 吉場 章二		大塩 博美	
	野原 和久	熊川 雅文	清水 彰人	於曾能 優	金子 仁美	松本 茂	高木 優大	滝島 開	杉本 大輔			
	金子芽久未	根岸 宏行	小林 直樹	田島 光泰	和田 一貴	大久保伸一郎	相川 貴彦	三好 隆文	南 勝也			

卒業 年次	中 学 校		
	A	B	C
H 11	大久保 靖	樋田 穎	
	南元 大輔	杉本 寛朗	
12	大谷 稔	黒沼 康広	鈴木 純
	平澤 誠	山下 康平	堀山 正雄
13	古城 仁	平川 吉治	
	依田 晃太		
14	大久保 靖	市川麻紀子	
	金子芽久未	野原 和久	
15	鈴木 純	松下 佳代	大谷 稔
	小倉宏太郎	鈴木 亜希	長塚 将
16	古城 仁	今井 戒史	今福浩太郎
	長田 邽	五十嵐祐馬	米内 俊裕
17	川口 純	北園 桂子	山内 雄司
	中村 祐輔	松本美和子	森 壮人

活 動 報 告

同窓会役員名簿

役 名	氏 名	卒年	役 名	氏 名	卒年	役 名	氏 名	卒年		
名誉会長 会長 副会長 会員 会務 顧問 参与	宮石 崎嶇 見串 橋室 多野 河伸 白相 内宮 松高 鷺谷 野加 柴山 松萩 大印	治 泰正 幸泰 勇 英 吉成 英浩 章 三広 久見 正一 正 登 夫穎 篤郎 一 太郎 一 太郎 男 登 祐宏 忠 登	16年度幹事 37 35 37 41 45 53 34 41 53 41 23 23 27 29 30 31 34 35 39 41	阿久津 清水 宇田 藤 小岩 宇津 向木 古相 豊山 加木 小長谷 下原 祐芳 克登	功 清助 勝彦 安泰 薄勇 浩京 孝 由仁 一 浩 吉相 和 和 正一 一 太郎 一 太郎 男 登 祐宏 忠 登	23 23 27 34 41 41 45 45 48 48 50 53 53 53 53 53 H3 H12 H12 H12 H12	17年度幹事 23 27 34 41 41 41 45 45 48 48 50 53 53 53 H3 H12 H12 H12 H12	清岩 野藤 崎田 村石 石串 白大 平染 伊須 河内 西渡 高西 寺木 木渡 寺木 内部	岩生 二憲 己行 治司 保夫 博昇 和隆 敬光 伸夫 員夫 夫郎 史樹 也	20 20 34 35 37 37 41 43 45 46 48 48 49 53 54 61 H2 H3 H12 H14 H14 H14 23

校外参与・幹事会報告

平成17年10月29日(土)・30日(日)、葉山の私学共済『相洋閣』に17名の参与・幹事が出席し開催されました。

夕食前の2時間、下記項目について検討されましたが、定例会議とは一味違った活発な意見交換が行われました。

- ① 今年度の予定・方針・予算に付いての状況報告
- ② 次年度に向けて新幹事の予定数と候補者の推薦について
- ③ 学園創立100周年募金活動への取組み
- ④ 学園創立100周年記念誌(中学・高等学校同窓会分)への取組み
- ⑤ 12月10日クラス委員・教職員・参与・幹事の懇談会について
- ⑥ その他

会議終了後、出席者は温泉につかりながらも幹事会のあり方や同窓会の問題等、



関係で話せない様々な話に花が咲き、楽しい有意義な一時となりました。

更に二次会では、夜半過ぎまで盛り上がりましたが、出席者の平均年齢?を考え、まずはお開き。

翌日、晴れとした海の景観をバックに記念撮影、朝食後現地解散となり、「校外参与・幹事会」は無事終了しました。



平成 16 年度事業報告

- [1] 総会 於: 小金井キャンパス
平成 16 年 5 月 15 日
1. 平成 15 年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
2. 平成 16 年度事業計画案、予算案の審議および承認
3. 幹事の改選
4. その他
- [2] 同窓会誌「朋友」2004 年版の発行(タブロイド判)
校友会のしおり発行への協力
- [3] クラス会開催促進
- [5] 同窓会業務 IT 化促進(HP 保守・更新)
- [6] 同窓会運営規定集の作成
- [7] 学園創立 100 周年記念事業への協力
- [8] 同窓会幹事・教職員・クラス委員との懇談
- [9] 平成 16 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- [10] クラス委員名簿改訂
- [11] クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給
- [12] OB 会を開催するクラブに補助金として 10,000 円を支給
- [13] 入学記念品として、キー ホルダーを贈呈
- [14] 卒業記念品として証書録みの贈呈
- [15] 新会員に同窓会活動について説明会
- [16] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会
- [17] 武藏野祭優秀展示作品の奨励
- [18] 体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [19] 卒業生招待会への協力
- [20] 校外幹事会・参与会の開催

〈会計監査報告〉

上記決算について、適正であることを認めます。

平成 17 年 4 月 21 日

会計監査

横山 真一・横山 実

総会、招待会、懇談会スナップ

同窓会活動とて一番大切な、会員の皆様や学園とのコミュニケーション。毎年、「総会」、「卒業生招待会(学校主催)」、「幹事・参与・教職員・クラス委員懇談会」を開催しておりますので、ぜひ、積極的にご参加下さい。



・小金井キャンパス講堂で行われた総会



・総会で承認された新幹事



・総会、招待会当日のキャンパス正面



・総会後、カフェテリアで行われた卒業生招待会

平成 17 年度事業計画

- [1] 総会 於: 小金井キャンパス
平成 17 年 5 月 14 日
1. 平成 16 年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認
2. 平成 17 年度事業計画案、予算案の審議および承認
3. 幹事の改選
4. その他
- [2] 同窓会誌「朋友」2005 年版の発行(ブック判)
- [3] 校友会のしおり発行への協力
- [4] クラス会開催促進
- [5] 同窓会業務 IT 化促進(HP 改訂)
- [6] 三委員会活動の活発化(朋友・しおり、クラス会促進、業務 IT 化)
- [7] 同窓会運営規定集の作成
- [8] 学園創立 100 周年記念事業への協力
- [9] 教職員・クラス委員との懇談
- [10] 平成 17 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- [11] クラス委員名簿改訂
- [12] クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給
- [13] OB 会を開催するクラブに補助金として 10,000 円を支給
- [14] 入学記念品として、キー ホルダーを贈呈
- [15] 卒業記念品として証書録みの贈呈
- [16] 新会員に同窓会活動について説明会
- [17] 新クラス委員となる人へクラス会開催の説明
- [18] 武藏野祭優秀展示作品の奨励
- [19] 体育祭、合唱祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [20] 卒業生招待会への協力
- [21] 校外幹事会・参与会の開催

平成 16 年度決算報告

(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	収 入	支 出
会 費	1,148,400	事 業 費
3,600 円 × 314 名(高校)	1,130,400	総 会 費
3,600 円 × 5 名(中学)	18,000	教職員・クラス委員懇談会費
		クラス会補助金
		クラブ OB 会補助金
		同窓会誌製作発行費
		新クラス委員懇談会費
		クラス会促進委員会費
		業務 IT 化委員会事業費
		同窓会運営規定集作成費
		会 議 費
		事務通信費
		諸 費
		予 備 費
		記念事業基金
補 助 金	500,000	
利子・配当金	8	
雜 収 入	90,060	
小 計	1,738,468	小 計
前期繰越金	358,983	次期繰越金
収入合計	2,097,451	支出合計
		2,253,464
		362,952
		2,616,416

平成 17 年度予算

(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	収 入	支 出
会 費	1,504,800	事 業 費
3,600 円 × 332 名(高校)	1,195,200	総 会 費
3,600 円 × 86 名(中学)	309,600	教職員・クラス委員懇談会費
		クラス会補助金
		クラブ OB ・ OG 会補助金
		同窓会誌製作発行費
		新クラス委員懇談会費
		クラス会促進委員会費
		業務 IT 化委員会事業費
		同窓会運営規定集作成費
補 助 金	500,000	会 議 費
雜 収 入	70,000	事務通信費
		諸 費
		予 備 費
		記念事業基金
小 計	2,074,800	小 計
前期繰越金	519,334	次期繰越金
収入合計	2,594,134	支出合計
		2,594,134

委員会報告

朋友・しおり委員会

委員長 仲野成憲

中学・高等学校同窓会の機関誌「朋友(FOR YOU)」は、通常は見開き4頁のタブロイド版で発行し、3年毎に32頁の冊子版として発行しています。

今回(第21号)は冊子版の年に当たり、新聞形式では掲載しきれない、同窓会の歩みや会員の動勢等(卒業者数、担任・クラス委員一覧)、再調査し、できるだけ正確を期しました。

従前はモノクロ版で発行していましたが、印刷技術やコンピュータ技術の技術革新のお蔭で、カラー版で発行することが出来るようになりましたが、モノクロ版からカラー版に変更したことは、読者の方々に喜ばれる機関紙になった反面、カラー印刷のメリットを生かした機関紙にするために、記事や写真の掲載方法や編集方針についての見直しを迫られることになりました。

そうしたことから、「朋友」第21号を作成するに

当たっては、まずカラー印刷であることを充分意識と共に、掲載記事についても、とくに読者にとって興味のある記事、有用な記事を、できるだけ多く掲載することに留意して作成しました。

また、「校友会のしおり」2005年版については、校友会事務局および大学同窓会電機学校同窓会、中学・高等学校同窓会の三同窓会合同の「しおり編集委員会」による編集会議で検討し、読者の方々にとって、より見易く、分かりやすい冊子にすることを編集方針として発行しました。

2005年版では、とくに表紙のデザインを大幅に変更して、校友会の組織がひと目で分かるようなデザインにした他、裏表紙の校友会案内図についても立体図としてより分かりやすい図に変更しました。

その他、各同窓会の記事は、できるだけ同じような構成になるように、写真は出来るだけ大きく見易くするように、あまり活用されない記事は削除するなどして発行しました。

今後も、皆様のご助言と、ご協力を頂きながら、更に充実した「朋友・しおり」の紙面作りに努力する所存です。

クラス会促進委員会

委員長 小室泰之

平成14年に発足し、早3年が過ぎましたが、ホームページも立ち上がり、同窓会関係の書類のIT化も進み、幹事会運営がより効率的になりました。

また、幹事のメーリングリストの整備も進み、連絡や情報伝達に威力を發揮しています。

今後、ホームページをより見やすく、会員の皆様に役立つ内容に更新するとともに、業務のIT化、メーリングリストの更なる整備、拡充に努力をしていきたいと思っております。

大学、大学同窓会、電機学校同窓会、校友会、のホームページともリンクしていますので、中高同窓会の情報だけでなく学園関係の色々な情報も知ることができますので、ぜひ、ご覧下さい。

なお、会員皆様からの貴重なご意見や情報を寄せただくため設置した「掲示板」は、悪質な書き込みやいたずらが多く、現在、閉鎖し対策を検討中です。

同窓会活動の活性化には、まずクラス会を活発に開催していただき、クラス委員を通じ、同窓会や学園の情報を知ってもらおうと発足した委員会です。

クラス会開催に当たっては、クラス委員の責任が非常に大きく、卒業以来、毎年開催しているクラスや定期的に開催しているクラスはクラス委員が安定していますが、ほとんど開催したことのないクラスは、クラス委員の所在や消息が分からなくなっています。今回、本号に掲載されています「卒業年次別担任・クラス委員一覧」を再点検し、間違いを訂正するとともに所在不明者や物故者を整理させていただきました。

卒業したばかりのころは、あまりクラス会開催に興味のない人でも、数十年たつと昔の仲間に会いたくなるものですが、その頃には、クラス委員も含め、かなりの人の消息や所在地が判らなくなってしまいます。クラス会を開催したいと思っても、クラス委員の所在が分からぬ方は、ぜひ、校友会にご相談下さい。

東京電機大学中学・高等学校同窓会会則

第1章 名称および事務所所在地

第1条 本会は東京電機大学中学・高等学校同窓会と称す。

第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4 東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1 東京電機大学中学・高等学校内に置く。

第2章 目的

第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繋を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。

第3章 会員

第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。

2 正会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。

3 準会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の在校生とする。

4 特別会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。

第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

第4章 役員

第6条 本会には次の役員を置く。

一 名誉会長1名

二 顧問および参与若干名

三 幹事25名以上50名以内(うち、会長1名、副会長若干名、会計、庶務各若干名を含む)会計監査2名

四 クラス委員を各クラス2名を置くことができる。

第7条 名誉会員、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べることができる。

2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。

3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

4 会計は本会の会計を担当する。

5 庶務は本会の庶務を担当する。

6 幹事は会務を分担し、本会の運営に当たる。

7 クラス委員はクラス会を開催し、本会との連絡を緊密にし、本会の発展を図る。

第8条 会長、副会長の任期は2ヶ年とし再任を妨げない。

2 幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。

3 役員に欠員を生じ、本会の運営に支障あるときは補充をすることができる。但し任期は前任者の残任期間とする。

第5章 会合

第9条 総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決を行う。

第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。

2 クラス委員会は、クラス会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。

3 クラス会およびその他の会は隨時に開催できる。

各会を開催した場合は会長に結果を報告する。

第11条	第9条の総会・第10条の幹事会は、出席人数を以って成立し、その議決は出席人数の過半数の賛成を必要とする。	附 則 1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。 2 昭和46年5月15日 第6条第4項一部改正 昭和47年6月27日 第6条第1項一部改正 昭和50年6月7日 第13条第1項一部改正 昭和56年6月27日 全面改正 昭和57年6月26日 第13条第1項一部改正 昭和60年6月22日 一部改正 平成4年6月20日 一部改正 平成9年6月21日 一部改正 平成14年6月15日 第6条第1項三号一部改正 平成16年5月15日 全面改正 平成17年5月14日 第8条第3項 削除、第11条の変更、他一部変更
第12条	本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。	
	第6章 会費および会計	
第13条	本会に入会するものは会費を納入するものとする。 2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。	
第14条	諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。	
第15条	会計監査は、本会の会計を監査する。	
第16条	本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。	
	第7章 会則の改正その他	
第17条	本会則の改正は総会の議決を要する。	
第18条	本会の運営上必要と認めたときは細則を設けることができる。	

東京電機大学中学・高等学校同窓会会則細則

第1条	名誉会長には東京電機大学中学・高等学校長を推戴する。	事会の推薦により定める。
2	顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。	本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。
3	参与は会長(旧会則による幹事長を含む)の経歴のある人で、幹事会の承認を得た者、または幹事(旧会則による常任幹事を含む)の経歴のある人で、幹事会の承認を得た者とする。	本細則の改正は幹事会の議決を要する。
4	会長および副会長は幹事会の互選で定める。	附 則
5	会計および庶務は幹事会の互選である。	1 本細則は昭和35年4月17日より施行する。 2 昭和56年6月27日全面改正 3 昭和60年6月22日全面改正 4 平成4年6月20日全面改正 5 平成16年5月15日全面改正 6 平成17年5月14日第1条第3項一部改定
6	クラス委員はクラス会より選出する。	
7	会則第12条による委員会の委員は幹	

《編集後記》

学園は、いよいよ来年9月、100周年を迎えることになりますが、少子化という私学にとって非常に厳しい時代への突入ともなります。

こんな中、同窓会活動は母校にとってますます大きな役割を担うことになると思います。

この機関誌「朋友」が、同窓会活動や学園の情報を会員の皆様にお伝えし、卒業生と学園のより強固な結びつきの一助になれば幸いです。

最後に「朋友」の作成につきまして、学校の先生方に多大なご協力を頂きましたこと、また、卒業者数やクラス委員等の再調査に阿久津幹事の多大なご協力を頂いたことに厚くお礼申し上げます。

（編集委員）

仲野成憲、串橋幸保、白田英夫、野口 隆

平成18年3月6日発行（非売品）

発行責任者 石崎泰司

〔編集兼発行所〕

東京電機大学中学・高等学校同窓会

住所：東京都千代田区神田錦町1-4

東京電機大学校友会

電話：03-5280-3512

東京電機大学中学・高等学校同窓会

住所：東京都小金井市梶野町4-8-1

電話：0422-37-6441（代）

本学園創設者の扇本先生（左）、
廣田先生（右）の胸像



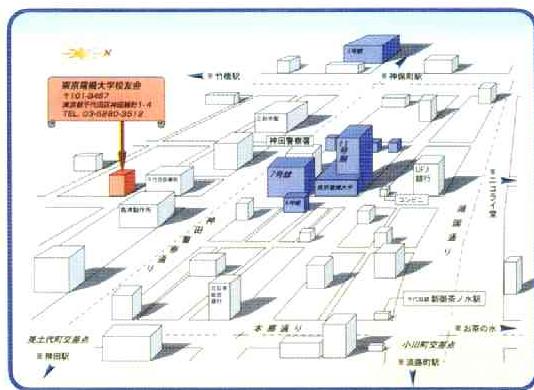
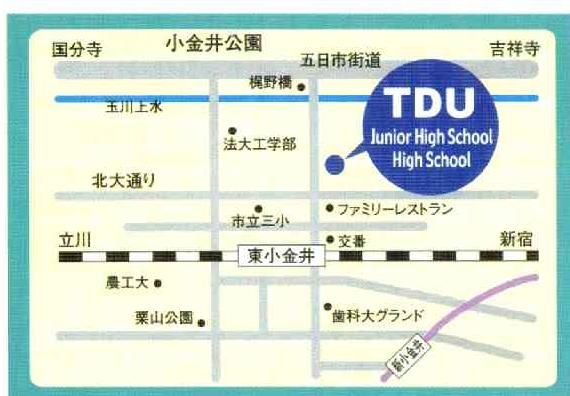
・神田錦町校舎
(写真的正面玄関は現在も健在)



河部貞夫先生のレリーフ「若者の像」。
学園創立60周年を記念して同窓会、学園、生徒
会により制作されたもの。現在、小金井校舎の
グランドの一隅に設置されている。



・小石川校舎 (S40~H4)



東京電機大学中学・高等学校同窓会
東京電機大学校友会

〒184-8555 東京都小金井市梶野町4-8-1 tel 0422(37)6441(代)
〒101-8457 東京都千代田区神田錦町1-4 tel 03(5280)3512

●同窓会ホームページ <http://www.dendai.ed.jp/chuko-doso/>

●校友会ホームページ <http://www.tduaa.or.jp/koyu/>